

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第12号
2020年 9月28日
編集・埴 吉成正士

「戦争について考える」第5弾

「戦争について考える」をはじめ、もう1ヶ月になります。みなさんの中には何が残ったでしょうか…。

私は今、戦争が終わっていて本当に良かったと思います。本当は世界で戦争というものがなくなればいいのですが、何かでもめてしまうことはあると思います。でも戦争で、人やもしかしたら動物も亡くなっていくことを知ったうえで戦いをするのは、良くないと私は考えます。なぜなら、命はそんな簡単に失ってはいけないものだからです。誰でも死ぬまでにやりたいことはたくさんあると思います。原爆は一瞬で皆の夢を壊しました。子どもから大人まで、たくさんの人の命が奪われ、すぐに亡くならなくても放射線を浴びたりして、後から亡くなる人もいました。苦しかったと思います。亡くなった人はもちろん、生きてる人々も。この経験があったから、今までたくさんの人々に、当時起こった戦争の恐ろしさというの身に付いています。これから絶対戦争をしてはダメだ！という強い思いがある戦争経験者のおかげで、皆生まれてきて、今も生きています。

この前見た「つるにのって」に出てきた禎子さんは、ちゃんと役目を果たしてから亡くなったと思いました。禎子さんの友達は、禎子さんのことを知り、悲しかったと思うけど、それに負けずに日本中の人々に禎子さんみたいな人がたくさんいることを知らせてくれました。私たちにとって素晴らしい存在の方々です。私たちも次の世代へと伝えていき、昔こんなことがあったんだと、どんな話が受け継がれていくといいなと思いました。

2組

* * *

朝学習で視聴した「つるにのって」で、これまであまり深く考えることのなかった戦争について学べた気がしました。幼い頃に行った原爆ドームなどで、幼い頃は「こんなことがあったんだ」とかの気持ちで終わっていたと思います。けど今は、このアニメを視聴してからいろいろと戦争のことが気になり、調べてみたりしました。アニメの動画で見たりしても、原爆がいかにひどかったか分かりました。いろいろ戦争について見たりして、また広島や長崎に行くことができるようになれば、幼い頃とは違う考え方ができると思います。戦争で亡くなった方も大勢いたから、戦争がいけないものだ気づけたのかもしれないけれど、戦争などしなくてもよかったのではないかと思います。

KH

「さだこ」と言えば、くすくすと笑い声が聞こえるときがあります。ニヤーっと妙な笑みが見られるときもあります。そのたびに、「またか」と、残念な気持ちになります。

佐々木禎子、この名前を知らない人は、ホラー映画

の「貞子」を思い浮かべ、先のような反応をします。でも、私の言う「さだこ」は、「禎子」であり、佐々木禎子さんです。つまり、それだけ佐々木禎子さんのことを、原爆のことを、ヒロシマで起きたことを知らない人がいるということです。知らない人は、知りようがなかったのですから仕方ありません。知らせない人の責任です。

みなさんは、アニメ「つるにのって」を観たので、今もぼんやりと残ってる人もいるでしょう。でもそれも時間と共に薄れ、消えていきます。そして、「何だったっけ？ そういや観たような気が…。どんな内容だったっけ？」となります。それも仕方のないことかもしれません。人は忘れる生き物ですから。でも、思い出したときにあらためて学び直しをしてほしい。禎子さんがどんな生き方を、どんな死に様をしてきたのかを。決して忘れていいことではありませんから。

「INORI」という曲があります。

別れがくると知っていたけど 本当の気持ち言えなかった
色とりどりの折り鶴たちに こっそり話しかけてました
愛する人たちのやさしさ 見るものすべて愛しかった
もう少しだけでいいから 皆のそばにさせて下さい
泣いて泣いて泣き疲れて 怖くて怖くて震えてた
祈り祈り祈り続けて 生きたいと思う毎日でした
めぐりめぐり行く季節をこえて 今でも今でも祈っている
二度と二度とつらい思いは
誰にもしてほしくはない 誰にもしてほしくはない

シンガーソングライター佐々木祐滋(ゆうじ)さんの「INORI」です。そう、佐々木禎子さんの甥っ子さんです。当事者の方々にとって、終わりはありません。忘れることはありません。伝え、訴えていくしかないのです。誰に？——あなたに、です。

今の自分は、好きなことだけをできていて、ほぼ自由な生活で当たり前の日々が送っていますが、戦争が行われているときは、勝手に他の人に自分の日々が奪われて、もしかしたら命を落としていたかもしれません。今の自分がどれほど幸せか、好きなことができる環境がそろっているし、勉強もできることに感謝しないといけななと思いました。

今はコロナウィルスで戦争について話すことも少なくなってしまう、被爆体験をした人も亡くなり、少なくなっていますが、そんなときこそ今の自分たち若い人が、この被爆について知り、次の世代へつないでいく必要があると思います。戦争がどれほどひどいものか知り、たくさんの人が亡くなったことをあらためて実感しました。

そんななか、今自分が住んでいる徳島でも大空襲がありました。徳島市の半分が被災し、千人が亡くなってしまいました。原爆が投下された長崎、広島だけではなく、この徳島でも戦争が起きていたこと、拡大していた

ことを知って驚きました。

戦争は今もどこかで起こっているかもしれません。人と人との争い、それがやがて国と国との対決になり戦争は起こります。今の日本は戦争をしない国になり、平和な世の中になりましたが、日本人として戦争については忘れてはいけないと思いました。 KK

この国はおかしい。

よく「恵まれてる」という言葉を聞くことがあります。「平和である」とも言われます。確かに経済的には豊かになり、平和になったのかもしれませんが、でも、本当にそうでしょうか。

「おむすびころりん1億個」っていうCMは見たことありますか？日本の人口1億2千万人ぐらいが、毎日1個、おむすびを捨てているというのです。毎日ですよ。1億2千万人がですよ。

一方で、日本の食糧自給率は4割を切っています。つまり、私たちの食料の約2/3は外国から輸入されているということ。足りないから輸入する、というのなら分かります。けど、輸入しておいて、毎日すべての人口がおむすび1個分を捨てているとは、どういうことでしょうか。いわゆる食品ロス、フードロスといわれる問題です。

この国はおかしいです。

捨てるくらいなら輸入しなければいいのでは、と思ってしまう。世界では約8億人が飢餓にひんして、食料の約1/3は捨てられているそうです。今、この瞬間にも飢餓で命を落としてる子どもがいて、争いを止められない国があるというのです。

この世界はおかしいです。

もしそれがあれば助かるかもしれない命を想像してみましよう。戦争していないことはいいことです。今の環境に感謝するのも大切です。でも、今のままでいいはずがありません。この国を、この世界をどうにかしないと。ぼんやりしている場合ではありません。

みんなで行こう!! 中学生集会:10月18日(日)

人権だよりを発行するなかで、みなさんの書いた文を読み、私なりに感じたことを書いてきました。本当に感動もしたし、素晴らしいなとも思いました。だけど、それがホンモノなら、中学生集会(人権を語り合う中学生交流集会)に参加する人がいてもおかしくないと思うのですが、いません。行きたくても部活動などで行けないのかもしれませんが、それにしても、1人もいません。

徳島市内の中学生の人権意識は低いように感じます。人権学習はしてはいるけど、本気ではない。それはどこか、「おまけ」のような感じで、「やってもやらなくてもいい」ようなもの。人権学習は、「おまけ」でされるものではありません。教育の中で最も大切なテーマです。勉強も大切ですが、それと同じくらい、いやそれ以上に大切なテーマです。前にも書きましたが、心のない科学は、人類を滅ぼします。だからコロナ差別が大きな社会問題になったとき、国からも県からも、人権の重要性が発信されたのです。

中学生集会に行きませんか！

中学生集会を始めて25年。「中学生の、中学生による、中学生のため」の人権集会。25年の間には困難なこともありましたが、腹の立つことや悔しい思いもありました。それでも中学生はどんなときも懸命に、たくましく、豊かに会に携わってくれました。本音で自分の思いを、自分の生き立ちを、自分のなかにある悲しみや悔しさを、そのありったけをぶつけ、受けとめ、見えない傷を癒やしていきました。そんな場所を来年も、これからも続けていってほしいという声に押され、25年間続けてきました。

参加したことのある人には分かる、かけがえのない場所。そんな場所を守りながら、より広く、より多くの学校や仲間に声をかけ続けてきました。徳島市内の中学生にも参加してもらいたい。参加することで、人権を考えること、人権について語り合うことの喜びを感じてほしい。そして、徳島市内の中学生の人権意識を高めたい。それが、みなさん自身のためにもなるし、みなさんが生きるこれからの社会のためにもなると思っています。

みんなで語り合おう! 学年人権学習:10月5日

夏休みから、戦争や、「あなたはひかり」、「いのちって何だろう」、「決断! 骨髄バンク移植第一号」、また「性教育」と、いろんな資料を通して「命」について考えてきています。どの命も大切だということ。にもかかわらず、命を軽んじるような差別やいじめ、戦争がある。がんばりたくてもがんばれなかった命。奇跡のようなあなたの命や私たちの出会い。当たり前になり、見過ごしてしまっている身近な命。命って、何なのでしょう。

6クラスそれぞれで行ってきたこれらの人権学習を、10月5日、体育館に持ち寄り、学年みんなで学び合います。テーマは、「生きることは」。

1. これまでの学習でどんなことを学び、考え、感じましたか。
 2. 資料に重ね合わせて、みなさんはこれまでどんな苦労や悩み、またよろこびがありましたか。
- 補.** 「生きる」とはどういうことだと思いますか。

5日当日、上のような発問をします。どんなことを発表するか、伝えるか、語るか、5日までに考えておいてください。発表する内容を生活記録に書いて先生に相談しておくのもいいでしょう。

そのときに大切にしてほしいのは、「具体」です。自分が見たこと、聞いたこと、体験したこと、感じていること、考えていること。今までの自分、日常の自分、ありのままの自分を出し合うことです。自分を語ること、そこからしか始まりません。そうやって、身近な人の本当の姿を知るのです。それが、人権学習の喜びとなっていきます。

* * *

いざ、というとき、人はその真価が問われます。いざ、というときに逃げない、本当の強さや優しさをもった人になっていってほしい。そう思います。打てば響くような、響き合うような、そんな10月5日をみんなで過ごしましょう。そんな10月18日にしましょう！